

再生

再生の題字（森迪彦様提供）は、森信三先生の直筆です。



師友道友の活動を綴る善行伝承誌

人間は、自己に与えられた条件をギリギリまで生かすという事が、人生の生き方の最大最深の秘訣。

森信三先生一語千鈞より



第0061号

2021.9月号

令和参年

実践人福岡仁風読書会

現代における孝の哲理

森 信三先生 講述

— マナコを閉じて親の祈り心を —

十三 孝は東洋的叡智による宇宙的真理

さてこれらの問題を根本的に考えるには、われわれ人間の生命について、探究する必要があるかと思えます。ここで最近の光友誌(一灯園発行)での河野清氏のご講演を読んで教わった事です。人間の生命には、三つの生命があるといふのです。

第一の生命は、細胞的生命であり、われわれの身体は約六兆くらいの細胞でできていますが、一個の肉体が死んでも細胞としてはまだ生きています。栄養を与えれば培養することが出来るそうです。これが生物学的にみた細胞的生命であります。

次に第二の生命というのが、個体的生命ともいべきものです。単なる細胞の集合体というだけでなく、一個の意識的統一体としての生命であります。これが第二の生命といわれているものでいわば社会的生命であります。

さて第三の生命というのは、伝統的生命ともいえます。生命の発生には必ずそこに親があり、親があれば子があるという生命の連続とその伝承であります。言いかえますと、親の生命をうけて子につたえていく血統的種族的生命なのであります。思えばわれわれは親の血統をうけつつ、風土に培われた伝統の影響をうけて育つ生命的存在であり、民族の歴史も文化も思想もこの伝統的生命によつて養われてきたものであります。今こうして、一個の生命について三様の立場から考察したわけですが、第一の見方は、生物学的立場からみた考察であり、第二のそれは、社会的立場からみたものであり、第三のそれは、宗教的立場

からみた考察と言つてさし支えなからうと思ひます。この「生命の非連続的、連続観」を教えるのが、「人間宗」の真の意義ではないかと思ふわけで、ここに人間としての心情の深い源泉があると思われまふ。また第二の生命としての個と個の連帯感、即ちヨコの関係を説くのが西洋論理の特色であり、第三の生命としての連続観即ちタテの関係を重視するのが東洋論理の特質と言えまふ。



早朝読書会の様子 R3.08.07 (土) AM7:00

福岡空港ミリオン清掃の後に空港近くの大井中央公園で輪読しています。この日は、森信三先生の「人生二度なし」2、素質と天分の問題

実践人福岡仁風読書会

第57回 8月7日(土)

場所:福岡市博多区大井2丁目 大井中央公園にて

(実践人の家の会員であればどなたでも参加できます。)

(参加費無料) 詳細は、世話人へお問い合わせください。

校長の教室訪問

校長が授業のあつてゐる教室をのぞきこむことは、あまり職員間には喜ばれない向きもあつて、

「この校長はまかせきらない」とか

「こせこせしている」といった非難を受けることがある。それで校長は先生に嫌われてはならないと思ひ、つい教室訪問がなおざりになり勝ちで、せめて廊下を通つてお茶を濁す「廊下トンビ」や屑拾いで責を果すことになる。それでも多少の効果は、あるにはある。授業がうまくいつてゐるかどうか。そこは長年の経験で手にとるようになつてゐるものである。

先生に喜ばれる教室訪問はないものかどうか。少なくとも心理的に拒否されない教室訪問はないだろうか。私は次の三つの方針を考えた。

- 一、子どもの学習態度を知る。
- 二、教師の指導法を援助する。
- 三、教室の管理を援助する。

校長としてひとりひとりの子どもが、学校生活を楽しみ、真剣に学習に取り組む、順調に成長してゐるかどうかを知るには、どうしても教室での学習状態を知らねばならない。又、校長が、学習状態を見ることによつて、子どもたちは安心して学習に精を出す励みになるのである。全員の前面に立つて健康状態を見る。欠席があればその理由を尋ねる。ずる休みを発見して、すぐに探しに行き、学校につれて来たこともある。流感のようすも一一わかり、早目に適切な手をうつことが出来る。学習

用具を持たない子も沢山いる学校である。先生と打合せて、必要なら買って与えなければならぬ。学習に気乗りがせず、手遊びなどの子に注意する。書写の姿勢の悪い子などは、その場でいちいち直してやる。

要はひとりひとりに眼を配り心を配ることであるが子どもたちも次第に緊張して来るし、このことだけでも、子どもを愛する校長ならば是非行せねばすまぬことであり、担任もその真意と効果がわかり、喜んで貰えるようになった。

人間は誰しも人からほめられることを好むものである。お世辞とは知りながらでもやっぱり、ほめられると嬉しいのが人情である。よい授業があつてゐるときは、校長はそれに応え惜しみなくほめてやらねばならないと思ふ。

おるよりはおだてよ。

おだてるよりはほめよ。

ほめるよりは喜べ。

という方針で、おだてとは、実がないのにほめることであるが、おだての暗示にかかつてよくなる例もたくさんある。ほめるとは、実を見つけてほめることで、相手の真意を認めたり、相手が無意識にやっている事でも、その意味や価値を知らせてほめることである。もし、ほんとうに相手の心を打つようなほめ方がしたいなら、こちらが、驚き、感動し、喜ばねばならない。その時こそほんとうに相手も心の底から喜び、勇気づけられるのである。



第38回 福岡空港ミリオン清掃
8月7日(土曜日) 5名参加



お天道様にいちばん近い高台で、楽しい世代交代の儀式が行われました♪袈裟右衛門さんから新緑色の帽子を渡された井さん&恵さんは、「頑張ります！」と、爽やかな笑顔です。キラキラと空気が光っている青空や、勢いよく成長している草木までもが、若い2人を応援しているようでした。この時を、みなさんとともに共有することが必然だとしたら、私の使命は何だろう、、、自分の体が動ける間は掃除を続けることなのかな、と思う瞬間でもありました(^^) 井さん&恵さんを応援していきたいと思います！

MARIMARI

日本一きれいな博多駅・福岡の街に！

第 333 回

博多駅 早朝清掃

毎月 **8** 日 午前 6 時 15 分～

【第一回】平成 5 年 12 月 8 日開催

福岡実践人・JR 九州博多駅
精華女子高等学校・福岡掃除に学ぶ会

 **ハウスマイト**

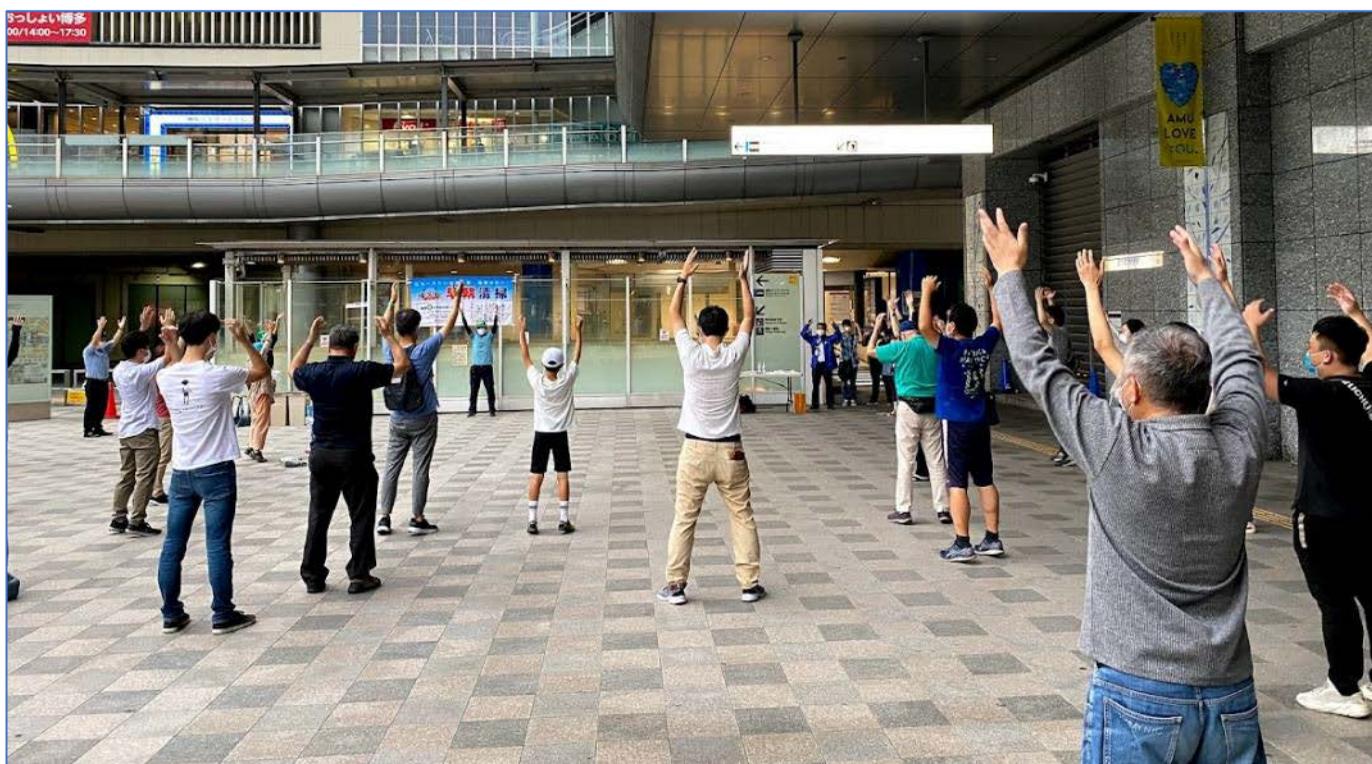


第333回 博多駅早朝清掃

28年目・・・

8月8日(日曜日)

88名参加



今日は8月8日、末広がり8という数が繋がっています、そして333回目ということで、こちら3つながりです、3という数は思いや願いが叶う数と言われてます。そんな縁起の良い日に、まるでオリンピックの聖火のように、お世話役人さんが、袈裟右衛門さんから井さんへと引き継がれ、とても感慨深いものがありました。と同時に、過去現在未来へと繋がる時間軸で、過去と未来のど真ん中の今、この一瞬に感謝して生きることが幸せなんだろうな、そんな事を考える時間でもありました。いろんなことを気づかせていただける福岡清爽クラブとのご縁に、心より感謝致します♡

MARIMARI



新代表：井さん



おしのび参加



博多駅 副駅長



福岡便教会：中尾先生



初参加の方々



帆足先生より受け取った博多駅早朝清掃をはじめとする『福岡掃除に学ぶ会』のバトンを、8月8日より井啓充さんにお渡ししました。帆足先生と長年にわたりこのバトンは福岡の人に受継いでほしいと願っていました。井さんは、福岡県人、今年の初めに東京よりUターンしてきました。これまで、活動の運営方法を、八仙閣の経営改革や博多駅のリニューアルに応じて『参加するみなさんがどうやったら継続できるか』ということ念頭に帆足先生と試行錯誤して運営してきました。これから先、50年100年と継続できる博多駅早朝清掃を旨として、井さんを核として若い人たちが中心となり、アイデアを出し考えていただけることと信じております。これまでご支援いただいている参加者のみなさん、全国から応援いただいているみなさん、今後ともご指導よろしくお願いたします。

富吉 袈裟右衛門 拝

令和を巡る早朝清掃／戒壇院 2020.1.25～

8月28日(土曜日) 第20回



福岡掃除に学ぶ会の継承

帆足行敏⇒富吉袈裟右衛門⇒井啓充

令和3年8月より福岡掃除に学ぶ会の代表を引き継がせていただくことになりました。

私が掃除と出逢ったのは3年前の令和元年です。当時は仕事で東京に住んでおり、新宿歌舞伎町の街頭清掃に初めて参加しました。今までほとんどゴミを拾ったことがなかったので、最初は少し人の目が気になりましたが、一緒に参加している皆さんを真似して拾い続けました。ゴミを拾う度に心まできれいになっていくような気がして、掃除後には何とも言えない充実感を感じたのを覚えています。

その後、東京都目黒区にある菅刈公園のトイレ掃除にも参加させていただき、これが「掃除を生継続したい」と強く思うきっかけになりました。初めて素手で公衆トイレの便器を磨きました。とても抵抗がありました。一緒に掃除をしている皆さんが次々と手を入れていくので、私も恐る恐る便器に手を入れてみました。すると、自分の中の小さなプライドや見栄、今までの考えなどが崩壊した気がして、目の前のトイレを磨きながら涙を堪えるのに必死でした。ご先祖様、家族、親友、仲間、地域の方々など自分が多くの人に支えられて生きていることに気づきました。以来、コツコツと掃除を続けて参りました。

仕事の関係もあり、今年の3月に念願だった地元の福岡へ戻ってきました。早速、博多駅早朝清掃に参加させていただき大変驚きました。それは、社会人の方だけでなく、博多駅長や高校生や留学生の皆さんなどたくさんの方が参加されていたことです。地域の方々との繋がりを感じました。

また、人が温かいというのも驚いたことです。駅前の溝の掃除をしているとタクシーの運転手の方から声を掛けてもらいました。何気ない会話をしながら掃除も手伝ってくれました。なかなかない出来事に心が温まりました。

そして、特に驚いたことは博多駅周辺がとても綺麗だったことです。博多駅周辺を一周したのですが、ゴミを見つけたことの方が大変でした。これも28年間一度も欠かす事なく続けられてきたこの会の賜物だと感じました。

この歴史ある会の代表世話人を富吉袈裟右衛門さんから引き継がせていただきます。

袈裟右衛門さんとは二年前前に東京の掃除で一度お逢いしたことがありました。その日は大雨で、私がグレーチングをしていた時に「頑張っていますね」と声を掛けて頂きました。それから二年後、福岡で再び一緒に掃除をさせていただき、今でも多くを学ばせていただいています。

私の役割は博多駅早朝清掃の発起人である帆足行敏先生と、それを受け継いで来られた袈裟右衛門さんに続き、この文化を途絶えることなく広く伝えていくことだと思っています。博多駅早朝清掃のこれまでの歩みを聴けば聴く程重みを感じますが、まずは参加される皆様が掃除を楽しく継続できる運営を心がけて参ります。月に一回顔を合わせ、挨拶を交わし、繋がりを感じて安心できるような場所であり続けられるよう取り組んで参ります。

森信三先生の言葉「紙屑はその国の文化の象徴」にある通り、博多駅を日本一きれいな駅にすることで、福岡の良い文化をこれからも皆様と一緒に作っていききたいと思えます。

福岡掃除に学ぶ会

代表世話人 井 啓 充

新新塚駅早朝清掃/いづか明星寺団地自治会

8月21日(土曜日)

5名参加



草が伸びるのは早いものです、先月採ったところが1ヶ月でまた元に戻っています。すごい生命力です。太陽や水や微生物と共存することができれば、命は引き継がれていくのでしょうね♡コロナ渦においていろんなことが起こっていますが、未来を繋ぐために、自然の摂理に従い、自然に感謝しながら生活したいと思いました(^^)いつもありがとうございます♪

MARIMARI

帆足行敏先生講和

平成12年12月1日

おはようございます。十二月の幹部会の議事録がありますけれども、私の発表と重なるとちよつと長過ぎると思いますから、これは明日に回してもらおうと。今朝の発表は、先月私が、私自身の計画としては、大変大きな計画がありましたので、そのことについて少し触れてみたいと思います。

十一月の四日と五日に警固中学校のトイレ掃除の大会をやりました。四日の日には、九州管内の方に呼びかけをしておりましたので、交流会といつて、遠方からお見えになった方々と、それからお互いに人間関係を深めようということで、交流会を八仙閣でやりました。これは五十名の参加がございました。遠方は、群馬県それから東京、千葉、それから九州は鹿児島、熊本、長崎、佐賀、そういう所からお客さんがありました。交流会といいますが、先ず始めに、ただ会って一杯飲むということだけじゃなくて、講師をお招きして、講師のお話を聴いて、その後で皆さんで一杯飲んで親しくなろうと、こういうことをやりました。今年の講師は、その博多中学校の校長をしておりました十時先生に講師をお願いをしたわけです。というのは、十時先生はご夫婦共、中学校の校長先生で辞められた。そういうことで、経済的にもゆとりがあるということ、私の方から十時先生に、「ブラジル掃除に学ぶ会」に福岡県を代表すると言つては大袈裟だけれども、是非行つてくれんかということをお願いして、「ブラジル掃除に学ぶ会」に行つてもらつたのです。その体験発表をして頂いて、その話を聴いて、それから懇親会に入ると。私はこの掃除の会にずっと出ておりますけれども、痛切に感じるのは、大変集まる人が立派な方が多いですね。地位の高い人もおられますけれども、性格として非常に信頼のおけると言いますか、そういう方が非常に多くて、自分を全部さらけ出しても恥ずかしくないというような集まりです。だからこの交流会に出ると、後々まで長くおつき合いが出来るかと、こういう非常に、会の中でも素晴らしい会ではないかと思えます。そういう会を警固中学校の掃除の前にやりました。皆さんもそういう機会がありましたら、ぜひ顔を出してみてください。若い人も年配の人も本当に素晴らしい方が多いです。心のきれいな方といえますかね、いつも私は言いますが、きれいな方というのは無私の方、いわゆる自分本位でものを考えない、相手の立場を考えて、いつもおられるような、そういう方が多いですね。そういうチャンスがこれからもあろうかと思えますから、是非、人とのつき合いといえますか、そういう意味を含めて参加してもらおうと、またそれなりに自分が大きくなるのじゃないかなと、こ

う思います。お勧めしたいと思います。

その翌日が警固中学校の掃除の大会がありました。私は、一応責任者というところでですから、家を出るのは五時頃出ました。会場に行ってみましたところが、遠来からお見えになっている方は、もう既に見えて、玄関の掃除とか、或いは学校周辺の掃除とか、もうそういう掃除をやっております。警固中学校は玄関前が狭いですが、落ち葉一つないくらいきれいに全部掃き上げて、まだ時間があるので、その余力を見て隣の赤坂小学校、こういう所までの掃除をしておるわけですね。これは私が一番最初にそういう大会に行った時に思ったのですけれども、高宮中学校の時に私は責任者で行ったのですけれども、八時半から始まるのだから六時くらいに行けばいいだろうということで行ったところが、もう二、三十人の方が見えてですね、そして今のような掃除をやっている。そして集合場所が体育館ですから、体育館も全部拭き上げてしまつて、そして管理棟といひますか、玄関から入った所の廊下の窓ガラスなんか、全部拭き上げているのですね。それは私が六時前に行った時に、そういうことをやつておる。私はそういう場面にその時初めて出くわしたのですけれども、その時に他所から見えておった熊本の本責任者だつたと思うのですが、「人を迎える時には場を清めておかなければいけませんからね」と、こう言っているのですよ。人をお迎えする時には、きれいに拭き上げてしまつて、気持ちのいい状態でお迎えしなければいけませんからねと、またそうしたいですねと、いうことでした。高宮中学校でしたから、子供たちも来るわけですから、子供たちも「あつ」というような声がかかるくらいに、きれいにしておきたいと。こういうようなことで、「なるほどねえ。掃除の会というのは、そこまでやらないといけないのかね」というふうに思いました。警固中学校の時は、今は日の明けが遅いですから、このくらいだつたらと思つて行つたのですけれども、それでも遠くから見えている方は掃除をなさつておつたと。「このことを見て、やはり普通の団体とは違うなということを感じました。」

その掃除の大会をやりまして、あそこは生徒数が、私が想像した程は多くなかつた。全校で三百五十名、それに我々の側から集まったのが百三十名、それから先生方全員、教職員全員、それから保護者の方もかなりお見えになつておりましたが、総計すると五百五十名。それだけの人数が集まりました。結果的には、そういうことになつたのですけれども、夜の会合を何回繰り返したでしょうか。それとか、生徒会が主催でありますから、生徒のリーダーを集めてですね、その前に三回ぐらいリーダー研修というのをやりました。警固中学校を使つてやりますと、いっぺんにきれいになつてしまいますから、舞鶴中学校なんか他所の学校を借りてですね、或いは博多小学校、そういう所のトイレを借りてですね、そういう所でこういうふうなリーダーとして掃除をやるのですよという、訓練といひますか、研修といひますか、そういうことを、やつてきたのです。生徒たちも、そういう執行部の連中は、かなり慣れてきたといひますか、班を作つても班の扱い方とか、或いは指導の仕方、そういうものがかなり上手になつてきておりました。当日は、三十何班か、班が出来まして、それでも人数が足りません。リーダーがおりませんので、生徒諸君は皆サブのリーダーにして、後は我々の側からリーダーを作つてですね、やつたのです。我々の側のリーダーもそう数が多いわけではないので、掃除をする人はいるけれども、班のリーダーということになると、非常に数が少ない。ですから、こういうリーダーの養成とかを何回も繰り返してやりました。そして、こういう大会をやつたわけです。

次回へ

また春がやってきた。ゴッホは最初にアルルにやってきた。二月の思い出が忘れられないためか、一八九〇年の三月、サンレミからアルルへ出かけ、かつて描いたあの春一番のアーモンドの白い開花を描いているとき強い発作に襲われて療養所へ運び帰された。異状に長く続いたため、四月二十九日になるまでテオにさえ手紙がかけなかった。この日に出した手紙では、療養所を脱出したこと、北フランスへ行きたいこと、昔描いた(ニューネンの古塔)や(藁葺きの家)など自分の旧作を描きなさいということなどが訴えられている。

気力を失い、来ている手紙も読めないといながらも描いていた油彩画がこの(公園の草)なのである。「公園」と題付けられているが、これは療養所の見慣れた庭の片隅なのである。

一八九〇年五月のテオ宛の手紙にはイラスト付きでこう記されている。「僕は庭で若草の絵を二枚描いた。その内の一つは非常に簡素なもので、ここにスケッチしたのがそれだ。

紫とピンクの松の幹、そして白い花をつけた草とタンポポ、小さなバラの木があり、背景となるキャンバスの上部には他の木の幹がある。「僕はこれから表に出てそこへゆく——きっと滅茶苦茶に仕事がしたくなって、あとのことは一切忘れて、気分もよくなるだろう」

この年、なくしてしまった春を惜しむごとく、捕まえるごとく、不安のうちに描かれた作品。描くことだけが救いであり、悦びである。美しいものを見ようとする気持。美しいものを見るという意欲。これはいささかも衰えず、ここにこれほど美しい春が描き出された。なんと悲しまれた花々、なんとという松の幹。ゴッホの真髄は、正直に自分の眼で、心で、ものを見ることにあり、心の眼で描くことにある。こうし

てモチーフが、あらゆるものが変容する。ゴッホは生き、変容し、その経験の本質が絵に現れると、すべてを変容して、存在の新しい強さ、美しさが開示されるものがある。

オランダ王国、クレラー・ミュラー美術館財団

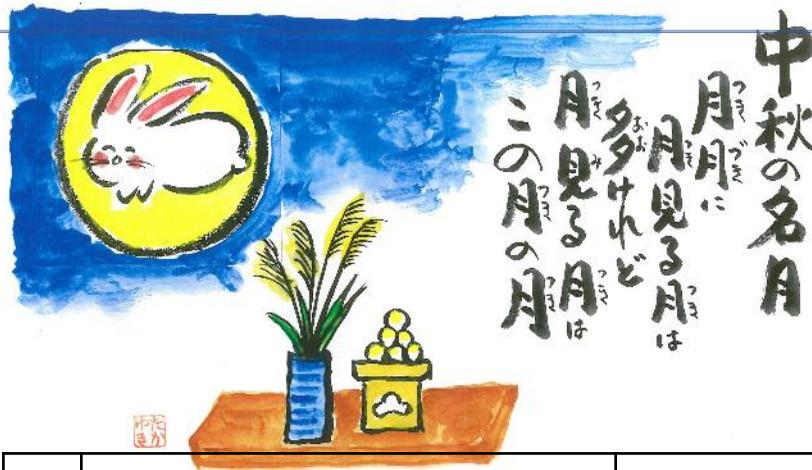
二〇〇〇年二月福岡美術館

二〇二一年八月二二日

広葉の林を育てる会

興膳 丈治





再生九月号

令和参年九月八日発行（毎月一回八日発行）創刊 平成二十八年九月一日 発行人 富 袈裟右衛門

	9 月の活動予定表								10 月の活動予定表					
日	4	4	8	11	18	25	26	26	2	2	8	9	16	23
曜	土	土	水	土	土	土	日	日	土	土	金	土	土	土
行事活動名	福岡空港ミリオン清掃 第40回	福岡実践人仁風読書会 57回	博多駅早朝清掃 第3334回	JR酒殿駅早朝清掃 第9回	新飯塚駅早朝清掃	令和を巡る早朝清掃 第21回	お初天神早朝清掃	ゆかり読書会	福岡空港ミリオン清掃 第41回	福岡実践人仁風読書会 58回	博多駅早朝清掃 第3334回	JR酒殿駅早朝清掃 第10回	新飯塚駅早朝清掃	令和を巡る早朝清掃 第22回
場所	福岡空港 周辺一万m	大井中央公園	博多駅博多口	JR香椎線 酒殿駅北口	福岡県飯塚市新飯塚駅	福岡県太宰府市 戒壇院	大阪	大阪	福岡空港 周辺一万m	大井中央公園	博多駅博多口	JR香椎線 酒殿駅北口	福岡県飯塚市新飯塚駅	福岡県太宰府市 戒壇院
開始時刻	6時	7時	6時15分	6時30分	6時30分	6時30分	5時30分	9時30分	6時	7時	6時15分	6時30分	6時30分	6時30分
運営団体	福岡清爽クラブ	福岡実践人	福岡清爽クラブ	福岡清爽クラブ	福岡清爽クラブ	福岡清爽クラブ	大阪掃除に学ぶ会	ゆかり読書会	福岡清爽クラブ	福岡実践人	福岡清爽クラブ	福岡清爽クラブ	福岡清爽クラブ	福岡清爽クラブ

楽農人遊休農地再生楽交の活動予定は<https://www.rakunoujin.com/>を確認下さい。

発行人(編集人) 富吉 袈裟右衛門

- ◇NPO法人福岡実践人 福岡清爽クラブ
 - ◇一般社団法人 実践人の家 福岡仁風読書会
 - ◇NPO法人 楽農人 耕作放棄地再生支援楽交
- 〈合同事務局〉 〒811-2247

福岡県糟屋郡志免町向ヶ丘2丁目4番3号 <<仁風庵>>
 TEL 092-931-8155(掃除) 931-8150(読書) FAX 092-931-8120
 E-mail fukusoukai@souji.link (掃除)
 kesa@rakunoujin.com(農業)



「再生」に掲載している写真は、富吉が撮影・管理しています。必要な方は事務局までご連絡ください。